

南陽市人口ビジョン 概要版

1. 人口の現状分析

【総人口の推移】

- 南陽市の人口は平成22年現在33,658人で、戦後、減少を基調とした人口動態
- 年少人口比率は12.8%で低下傾向、老年人口比率は28.4%で上昇傾向にあり、少子高齢化が進行

【自然動態】

- 南陽市は死亡数が出生数を上回る自然減の状態であり、自然減は拡大傾向
- 出生数は低下傾向、死亡数は増加傾向
- 近年の合計特殊出生率は1.5前後で横ばいに推移

【社会動態】

- 南陽市は転出数が転入数を上回る社会減の状態であり、社会減は横ばい
- 進学や就職による転出と思われる10代後半から20代前半にかけての転出が多い
- 20代前半から20代後半にかけての転入が多かったが、近年では減少傾向

2. 人口減少抑制の考え方

●出生数を増加させる

出生数の増加にあたっては、平成17年以降1.5前後で低迷している合計特殊出生率の向上を図る必要があります。また、10代後半から20代前半を中心に転出している出産年齢の女性の増加を図る必要があります。

●転出数を抑制し、転入数を増加させる

転出の大部分は10代後半から20代前半の世代であるため、この世代の転出抑制を図っていく必要があります。また、転入を期待できるのは20代前半から20代後半の世代であるため、この世代の転入を促進していく必要があります。

3. 人口の将来展望

人口の将来展望の考え方

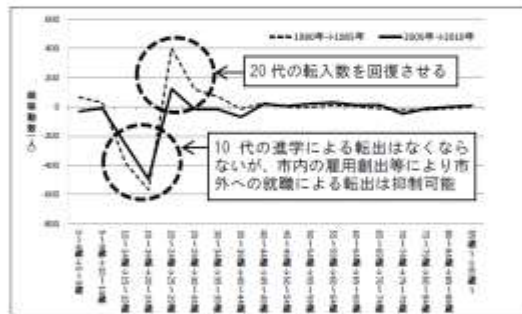
本市の人口の将来展望にあたっては、今後とも市民が安心して快適に暮らすことが出来るよう、人口減少に歯止めを掛け、若者が住み続け、子供たちの声が響くような定住促進を図っていくものとします。

●出生

将来の合計特殊出生率については、国の合計特殊出生率が本市とほぼ同値であることを踏まえ、国と同様の設定とします。

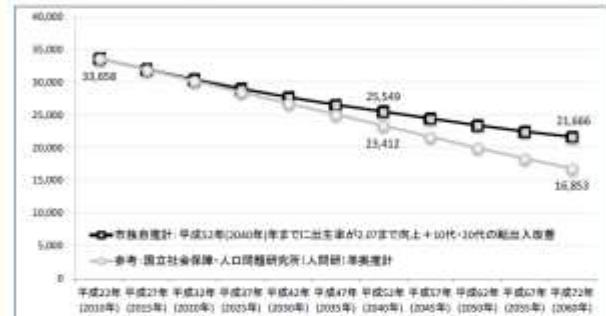
●転出入

将来の社会増減は、国の考え方を勘案して2040年に均衡するものとします。ただし、10代後半から20代前半にかけての転出数が多く、20代前半から20代後半にかけての転入数が減少傾向にある南陽市の現状を踏まえると、20代前半から20代後半にかけての転入数を増加させ、10代後半から20代前半にかけての転出数を抑制し、全市的に転出入が均衡するものとします。



南陽市の人口の長期的見通し

- 国立社会保障・人口問題研究所単推計では、南陽市の人口は2060年までに16,853人に減少
- 合計特殊出生率を人口置換水準まで回復させ、10代後半から20代前半までの転出抑制と20代前半から後半までの転入を促進させることにより、2060年における本市の人口は21,666人になると推計される



<南陽市の人口の将来展望に係る推計条件>

- 合計特殊出生率 ※国の長期ビジョンと同様
→2013年は1.44、2020年に1.6、2030年に1.8、2040年に2.07
- 転出数、転入数
→10代後半から20代前半にかけての転出の抑制と、20代前半から20代後半にかけての転入を促進し、全市的に転出入を均衡させる

4. 人口の将来展望の実現に向けた取り組みの方向性

【出生数を増加させるための課題】

- 出生の足かせとなる要因の軽減と婚姻の促進
(育児負担の軽減、男女の出会いの機会を増やす)
- 女性が住みたくなる環境の整備
(Uターン等の支援、充実した子育て環境の実現)

【転出数を減少させるための課題】

- 若年層の転出抑制
(雇用の確保、日常生活の利便性の向上)
- 安心して暮らすことのできる住環境の整備
(医療・子育てなどの安心した暮らしの実現)

【転入数を増加させるための課題】

- 雇用の確保や利便性の高いまちづくりによる若年層の転入促進
(雇用の確保、日常生活の利便性の向上)

【人口の将来展望の実現に向けた取り組みの方向性】

若者等の各世代が市内に住み続けながら働くことのできる環境を実現するとともに、女性が住みやすく安心して子どもを産み育てることのできる環境や利便と安全を備えた地域づくりにより住みたくなる環境を実現する

【基本目標1】

若い世代が安心して働けるための産業振興及び農業振興と雇用の創出

数値目標	基準値	目標値
製造業の従業者数 (従業員4人以上の事業所)	2,990人(H24)	2,990人
新規就農者数	10人(H23~H27)	15人(H28~H31)
年間観光客数	101万人(H25)	120万人

※年次速報は前年度での目標値、その他は単年ごとの目標値

方針1 産業の活性化や起業・就業等の人的支援等により雇用の確保・拡充を支援する。

施策① 企業活動、企業立地への支援

産業の活性化を推進し、事業者の定住を促進する。また、道路網の整備による企業立地を促進する。

施策② 就業の機会や育成への支援

若者・女性等の新規就業、Uターン就業等の機会提供や人的支援を推進する。

施策③ 起業の機会の創出、支援

地域の資源を活用し、起業を促進すると共に、商工業及び農林業の振興を図る。

方針2 地場産業の拡大による地域の活性化を促進する。

施策① 地産地消の推進、新たな発想による地場産品の販路拡大

南陽の「んまい」もの、地産地消の推進を図ると共に新たな発想による地元農産品の販路拡大により消費拡大を図り、地場産業の活性化を推進する。

方針3 地域の資源を活かして魅力のある観光、活力のある地場産業をつくる。

施策① 南陽市の魅力発信による観光推進

広域的な連携を行い、国内のみならず、アジアを主とした外国人観光客の誘致を推進し、観光客の増加を図る。高齢者、障がい者にも配慮した、「おもてなし」観光を推進し、「おもしろいな」の声あふれるまちづくりを行う。

施策② 観光向けイベント・ツアーの展開

広域的な取組を行い、民間と連携して地域の良好な資源を活用した魅力的なイベント・ツアーを開催し、四季を通じた観光客の誘致を図る。多彩な農業や美しい森の資源を活用して体験型交流活動を展開し、1次産業の活性化と環境の保全を図る。

【基本目標2】

希望に応じた結婚、出産、子育て、働き方ができる環境づくり

数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率	1.44(H25)	1.57

方針1 若い世代の交流と出会いの機会をつくる。

施策① 出会いの支援

若い世代の人たちが南陽市で結婚し、定住するように、多様な出会いの機会や、男女が体験を共有できる縁結びの場を提供する。

施策② 交流のスキルアップの支援

若い世代の人たちが、様々な人との交流などに自信を持って取り組むことができるよう、自分磨きの場を提供する。

方針2 安心して妊娠、出産しやすい環境をつくる。

施策① 妊娠、出産への支援

安心して妊娠、出産できるよう、妊産婦やその家族のサポートを強化すると共に、子を持つことへの希望を叶えるよう不妊治療費を助成する。

方針3 安心して子育てできる環境をつくる。

施策① 働きながら子育てしやすい環境の充実

働きながら子育てしやすい環境づくりを推進すると共に子育てに係る経済的支援を実施する。

施策② 子育て支援情報の提供

広報やインターネットなど、様々なメディアを活用し、妊娠・出産・子育ての各ステップにおける各種情報を提供する。

施策③ 地域ぐるみの子育て支援

子どもの居場所づくりや、高齢者・ジュニアリーダー等の地域の先生を育成し、地域ぐるみで子育てをサポートする。

【基本目標3】

定住の促進と安全で安心な地域づくり

数値目標	基準値	目標値
住みやすいと感じる人の割合	60.6%(H27)	65.0%
これからも住み続けたい人の割合	68.4%(H27)	70.0%
将来住み続けたいと考える中学生の割合	49%(H26)	60.0%

方針1 安住を促進する魅力的な住環境の整備を支援する。

施策① 定住を促進する魅力あるまちづくりへの支援

多様な世帯の暮らしやすいまちづくりを推進する。

施策② 空き家を活用した定住促進

空き家に係る問題解決に向けた協働を推進する。

方針2 安全で安心な地域づくりを推進する。

施策① 雪に強い地域づくりの推進

除雪体制・除雪支援体制を強化し、雪に強い地域をつくる。

施策② 安全安心な地域づくりの推進

災害時における復旧・復興等の機能を強化すると共に地域の防犯力を高め、エネルギーコストを抑えながら、安全安心な地域づくりを推進する。

方針3 人材育成等により地域の魅力を高め、発信する。

施策① 地域の魅力の発信

地域の魅力を掘り起こし、高めると共に市内外に向けて発信する。

施策② 地域づくりを牽引する人材の育成

地域での社会活動を通じて、地域づくりの中心となる人材を育成する。

施策③ 地域の核となる施設の有効活用

地域の公共施設の利用促進や有効活用を図る。